

平成 25 年度 第 2 回栗東市市民参画等推進委員会 会議録

日時：平成 26 年 3 月 2 日（日）13：30～15：30

場所：コミュニティセンター大宝東

内容：1. 開会

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

4. 報告事項

○平成 25 年度実施事業の成果報告について・・・《資料 1》

○平成 26 年度実施候補事業の紹介・・・《資料 2》

5. 意見交換

○市民参画と協働の庁内取り組み状況について・・・《資料 3》

○「行動計画」について

6. 閉会

出席者：小松 直利、高宮 弘、林 章、幡 郁枝、池田 久代、吉仲 幸子
笠井 賢紀、西川 実佐子、久徳 政和、新川 達郎

【会議内容】

1. 開会

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

新川委員長、部長

4. 報告事項

(委員長)

それでは、第 2 回栗東市市民参画等推進委員会を進めさせていただきます。まずは、報告事項、2つございます。「平成 25 年度実施事業の成果報告について」その後、「平成 26 年度実施候補事業の紹介について」でございます。それでは、事務局の方からご報告をよろしく申し上げます。

(事務局)

「平成 25 年度実施事業の成果報告について」資料 1 になります。7 月の 1 回目の推進委員会で、平成 25 年度実施していただく事業についてのご紹介をさせていただきました。本日、午前中に、各団体、協働の担当課から 1 年間の事業報告について発表いただきました。詳しい内容につきましては、審査委員委員長の方から報告をいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

(委員)

それでは報告させていただきます。平成 25 年度実施の協働事業提案制度事業として、3

団体が実施しておられます。3年間継続できる事業ですが、どの団体も平成26年度も取り組んでいただけるということで、進めていただいています。午前中の報告会では、1年目の課題を見つめながら2年目事業に反映してくださっていることが非常によく分かりました。また、その効果があがっているなというのを感じました。ただ、協働という意味での視点が弱いなと感じています。それは取り組み団体側の場合も行政側の場合もあるかと思えます。3年目は両方が協働事業としてどうかというところと3年目の総括として協働で取り組んだ成果がどうだったかというのを示していただくのがいいかと思えます。審査委員のコメントとしてもそのことを伝えました。

市民社会貢献活動促進基金の方の報告をします。市民活動としては2団体です。どの団体も年数を重ねるごとに団体の力がついていているなと感じました。特に、マミーズバンド奏さんは平成25年度が3年目だったのですが、最初申請してこられた時は、自分達の活動のためにしたいという思いが強かったのが、市民活動に目を向けられるようになり、地域の活動に参加したいという意味での会員も増えてきているということで、3年目を終えられました。今後は協働事業提案制度の方でもやっていきたいという声を聞き、とても心強く感じたところです。滋賀ものづくりネットさんは、前年度の課題を生かして、来年も取り組んでいきたいと力強く言っていただきました。夏祭りを実施されているのですが、写真では、非常に多くの方が参加されている様子が見えました。ただ少しリスク管理のところが弱かったかなということで、来年度はそれについてもしっかり取り組んでいくという言葉をいただきました。

地域振興協議会コースですが、地域の事情が非常に違うということが報告され、それは取り組んで分かったことだということです。個人的には、ご苦労されたことが伝わってきて大変だったろうと思いますが、やってみて違いが分かったことが良かったなと思えました。やってみないとわからなかったわけですから、そこでくじけずに、それぞれに応じて、柔軟な体制で取り組んでいただけたらと思えました。今回報告いただいた3団体は、来年度も引き続き取り組んでいただけるということです。

(委員長)

それでは引き続きまして「平成26年度実施予定の候補事業の紹介」をいただければと思います。よろしくお祈いします。

(事務局)

資料2「平成26年度実施候補事業の紹介」について説明。

- ・平成26年度実施 協働事業提案採択事業
- ・平成26年度実施 元気創造まちづくり事業

(委員長)

ありがとうございました。それでは報告いただきました内容についてご質問等あればよろしくお祈いします。審査に関わった委員の方からコメントございましたらお祈いします。

(委員)

審査を10月に行ったのち、事務局との調整、査定の結果を踏まえて、予算が減額になったという中で、団体さんとしての目的を達成するのが難しいとか、こんな工夫をしようと思うとか、提案したときは、こうだったけれども台風が起こったとか、状況の変化に応じて申請内容が変わったことがありましたら、お願いします。

(事務局)

審査の中で審査委員さんからいただいた意見については、各団体さんにお返しさせていただきました。それによって検討していただいて申請書の再提出が必要なところ、予算書の再提出が必要なところについては、各団体さんで協議をしていただき、再提出をしていただいた結果で載せさせていただいているのですが、特に事業内容を変更するという話は聞いてないです。助成の範囲内で活動をしていくという報告をいただいています。

(委員)

協働の方になります。親支援グループはやまさんで、父親の参加増につながる内容を審査の中で、団体さん独自で考えすぎていて、父親目線をどのように持っていくかという話をしていたと思うのですが、工夫された点とかはどうでしょうか。

(事務局)

本日の成果報告会の中で、今後の課題として、父親の参加ではなく参画という視野を持って取り組んでいきたいということで報告をいただきました。

(委員)

今日の報告を聞いて、父親の参画は増えていると感じました。どういうことがあったのかについて、掘り下げはできなかったのですが、市の方の対応もかなりきめこまやかになっていて、児童館の職員が丁寧に参加者に声かけをしたというのが大きいかと思います。

(委員)

地域振興協議会のコースの今日の報告会の様子をもう少し詳しく聞かせてほしいと思います。というのは、地域振興協議会については、役員が交代した時の問題等があります。こういうことをやることは悪くはないと思いますが、地域振興協議会は事業体ではなくて、地域の皆さんの交流を重きにおくものだと思っています。事業をするのは大変なことなので、事業がどのように進んでいるのか審査された委員さんからお聞かせいただきたいと思っています。

(委員)

今言ってくださった役員の交代によって事業の継続に影響がでるという悩みが報告会でも出されました。自分たちがプレゼンをして出したけれども、それが次にうまくつなげられず、少し事業の着手が遅れてしまったので、それを生かして次はうまくできるようにしていきたいとおっしゃっていました。役員の交代をどういう風につないでいくかというのは、それぞれの地域振興協議会のやり方につないでいけるのだろうなと感じました。ただ、課題として、役員の交代をどのようにつないでいくかということがあります。

また、立場として、事業体ではないということもおっしゃっていました。なかなか忙し

くてできないということもあるのですが、地域振興協議会ではかまどベンチがそれぞれの自治会で一つずつ設置するという予定だったのに、とりあえず地振協で一つやったら自治会独自でもやろうというところも出てきたということでした。地域振興協議会が投げかけたことによってそれぞれの自治会が自発的に取り組むきっかけになるということがあるのだなと思い、可能性を感じました。取り組み方も地域の事情によって随分違うのだなと改めて感じましたので、それぞれの地域振興協議会にあった形で進めていただくのがいいのかなと思います。制度自体が始まったばかりなので、これから可能性が見えてきたり、課題等もでてきたりするのかなと感じたところです。

(委員)

ありがとうございます。栗東独自の組織として、地振協はすばらしい組織だと私は思っています。やはり生活に密着したそれぞれの部会で、自治会、団体からでてきた人達が交流を図りながら持ち帰っていただくというのが一番の目的ですけれども、ある程度の予算もありますので、部会でいろいろ事業もやらなくてはいけない、運動会とかコミセンの祭りであるとか、また帰ったらみんなそれぞれ地域の役員であるので、二重の役員を引き受けている状態です。予算をいただけて学区のためになることをやることは悪いことではないのですが、難しいなと思っています。元気創造まちづくり事業について、もう少し議論をしたかった中で進んでいる状態なので、戸惑っている状態です。学区全員のことを考えるとそう簡単にできるものではないと思います。

(委員長)

今もお話がありましたように、地振協でどのように事業を進めていかれるのか、始めたばかりなので、これからなのですが、もう一方で正しい枠組みで従来の地域の各種団体の方々、昔ながらの地域の方々に入っていて、そこにまた新しい団体も加わっていただいたりしながら、それぞれの学区単位でコミュニティの新しい枠組みを作っていこうという大きなねらいがあります。当面は其中で新しい活動がどのように生まれてくるのかということをおみんなで一緒に考えていきたいと思いますという場でまずは出発しようというところだったと思います。ただ、その状態でいつまでもとどまっていたくのではもったいないということもございまして今回の元気創造まちづくり事業のような、にんじんをぶら下げてみたらどうだろうかというところも実はございます。ある意味では地域の方々に少し頑張ってもらって、そんなチャンス差し上げられればという気持ちも少しあります。余計なお世話といわれそうかもしれませんが。もう一方でこれからの本市のまちづくりを考えていったときに、地振協のような活動がもっともっと活発になっていく、それに刺激を受けてそれぞれの自治会や各種団体からまた頑張っていこうという動きがでてくる、そんな動きをぜひ期待しております。

(委員)

私は、マミーズバンド奏さんのお子さんの預かりをボランティアでさせていただいているのですが、マミーズバンド奏さんのメンバーは他市のメンバーの方が多いのですが、栗

東の様々なイベントに参加していただいて、本当に成長されたと思います。もう少し、栗東で協力してあげることがあったらと思います。駐車場代等で考慮されたらと思っています。子育てにとってもものすごく大事なことをされていると思います。お父さんからお兄ちゃん、お姉ちゃん、家族全員を連れて、演奏会を一生懸命されています。それを還元するために、児童館等いろいろなところで、演奏してくださっています。そういったいい活動をされているメンバーがいるところをもう少し、栗東市としてメンバーが増えるような形をもっていただけたらと思います。宣伝をしてあげてほしいと思います。

(事務局)

先ほどの成果報告会の中で、栗東市内を中心に活動することで、6名メンバーが増えたというのを聞きました。また、栗東市内の自治会から演奏の依頼がきているという話も聞かせていただきました。

(委員)

状況だけ確認ですが、マミーズバンド奏さんは平成25年度で3年目になりますよね。先ほど協働事業でもしていきたいという声を聞きましたが、平成26年度の助成はないですね。

(事務局)

はい。もし申請を出すとしたら、次の平成27年度になります。

(委員)

協働の相手はどこを考えていらっしゃるかとお尋ねしました。小学校へ活動を広げたいということで、教育委員会を考えているとのことのお答えでした。教育委員会を協働事業の相手方として提案したいということで、協働事業としての意図を理解しておられるように感じ、いいなと思いました。

(委員長)

頑張ってやっていただきたいですね。事務局の方でもぜひ応援をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

小学校の方はカリキュラムがありますので、その辺はじっくり相談していかなくてはならないと思っています。間に入らせていただきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

平成26年度の採択結果の滋賀ものづくりネットさんですが、何度も再提出させていますよね。その経緯と理由を教えてくださいました。一方では、奇術育成会さん是不採択になっていますよね。何度も再提出を行わせた事業と不採択になった事業の違いは何か。

(委員)

不採択の方から説明をさせていただきます。市の補助金を使っていたので、自分た

ちのやりたいことをやっているだけでは、市民社会貢献活動促進基金補助金の対象にはなっていないと考えています。補助の対象になるのは何かというと、公益性、市民の方にとりだけ還元できるかが大きなポイントになりますが、この奇術育成会さんについては、提出いただいた資料や、プレゼンの様子からは、自分たちがこれをしたということしか読み取れなかったという経緯があります。事業そのものが社会にどう貢献するかにつながっていないところが不採択になった原因です。採択となったものづくりネットさんの場合は、事業を行うことによって市民の方にどういうことが提供できるとか、多くの市民に参加していただき、また商店街や自治会さんと一緒にやることでまちの元気につながるということを意識しておられることで、公益性が認められました。

(委員)

プレゼンで質疑応答があるので、その中での受け答えが、社会貢献とはマッチしていない答えでした。メンバーの中で、この補助金をもらってどういう風にしていこうかということが共有できていないのではないかという意見も審査の中では出ました。ものづくりネットさんは、何回も再提出されたのは、基本的な部分が抜けていたので、そこは事務局が指導してくださいねと審査委員の方から注文をつけたところがありました。奇術育成会さんに対しては、今回はダメだったけれども、チャンスがあれば組織の中で、これに受かるためにはどうしたらいいかというのを団体の中で、話し合っていて再チャレンジをしていただくことが団体としての力になるのかなということで、お伝えしました。

(委員)

今、市全体的に盛り上げていこうとしている中で、少しでも意気込みのある団体さんは採択してもらって、団体自身が意味を理解しながら活動を広げていってもらったらいいいのかなと思いました。毎年同じようなところだけが出ているなど強く思っています。広げるため方法としてはあんまり難しいことをいっているとそれだけでやめようかとなる可能性もあるので、申請書の書き方やプレゼンの方法を教えてあげてほしいと思います。

(委員)

本質として、社会貢献活動としての意味を持っているけれども、言葉にできないのか、もともと社会貢献活動としての意味合いを持っていない団体なのかは、私たちは見極めているつもりです。本質を持っているけれども言葉にできないところには、指導をしていかなければいけないと思いますが、もともとないものを作り出してこう書いてくださいというのはNGだと思っています。その差かなと思います。

(委員)

意見ですが、市の補助金を使うので、審査としてはしっかりとさせていただきたい、書類の出し方とかプレゼンの仕方とかができない方が多くて、じゃあやめようか、自分たちでなんとかやっけていこうという市民活動があること自体は、いいと思います。ただし、社会貢献活動が見えていて、申請書をあげてきた団体さんに対しては、指導してあげてほしいと思います。ただし、私たちの税金であるので、そこはしっかりと見極めてほしいと思

います。

(委員長)

ありがとうございました。貴重なご意見をいただきました。その他いかがでしょうか。それでは「平成 25 年度実施事業の成果報告」について、「平成 26 年度実施候補事業の紹介」について、ご審議は以上にさせていただきます。つづきまして、意見交換につきまして、ご意見を賜ってまいりたいと思います。まずは「市民参画と協働の庁内取り組み状況について」事務局の方からお願いします。

5. 意見交換

(事務局)

「市民参画と協働の庁内取り組み状況について」説明。

(委員長)

本市の市民参画の取り組み、協働の取り組み、庁内各課でどういう取り組みをしておられるかということについて、平成 25 年度の実績についてご報告いただきました。この内容につきましてご質問、ご意見等ございましたらお願いします。どうぞご自由にご発言いただければと思います。

(委員)

協働のパートナーの表を見させていただきましたが、大学や企業と一緒にしている事業が随分少ないなと思いました。大学に関しては、栗東市に大学がないということと環びわ湖大学・地域コンソーシアムに栗東市は自治体として加盟しておりませんので、2012 年度は、補助金ที่ได้ただけたのですが、2013 年度以降は加盟しないのであればは外しますということで、コンソーシアムからの大学連携事業としての補助金の対象からも外されています。このことに関しては私も当事者ですので、大学と協定を結んでくだされば動きやすいということを各課に 1 年以上前から働きかけていますが、こういった動きも見られませんし、大学や企業は行政の方が間に立つと市民の皆さんをつないでいくことができる資源ではあると思います。この会議自体がそこに貢献できる会議なのかはわかりませんが、自治振興課さん等も含めて行政と住民だけではなくて、他の諸団体との協働も広めていくことができるのではないかと思います。発言しました。

(委員長)

学校、大学、企業さんとの協働が非常に少ないのご意見をいただきました。市内には大学はございませんが、近くにはたくさん大学があります。市内でも学生がいろいろな活動をされているようですので、大学を呼び込むというところを行政としても積極的に考えられてはいかがかということでご意見をいただきました。財政事情もあるかと思いますが、若い方々に積極的に入っていただくことで、市が元気になっていくということもご検討いただければと思います。ぜひ全庁的にも進めていただければと思います。なお、この委員会、市民参画等推進委員会は、こういった協働ということも含まれております。当委員会として、企業、大学との連携をもっと進めていただきたいという意見を、委員皆さんの総

意として申し上げていいのではないかと思います。ひとつよろしくお願いします。

(委員)

私、観光ボランティアをしているのですが、東海道は栗東市だけではなくて、草津にもつながっているわけですから、今言われたように大学、企業との連携だけではなくて、隣同士の市との間の協働も必要なのではないかと思います。個人同士のつながりはありますが、組織間同士のつながりというのはあまりできていないように思うので。

(事務局)

例えば、観光部局の方では、観光協会の関係事業で、他市と合同で実施する事業もしております。

(委員長)

観光事業に限らずこうした市民活動あるいは市との協働事業等々でもぜひ積極的に近隣市との連携ができればということでご意見をいただきました。ぜひご検討いただければと思います。その他いかがでしょうか。

(委員)

今回の庁内取り組み状況というのは、これに尽きるのでしょうか。前に職員研究会で報告が出されていたと思うのですが、それに対してのその後の動きとかは何か情報提供いただけないのでしょうか。

(事務局)

職員研究会で昨年度取りまとめでいただきました事例集ですが、これについては職員向けにまとめさせていただいたものですが、各職員には庁内 LAN で配布させていただいておりますとともに、職員に対する協働の意識を植え付けるということもございまして、11月に職員向けの研修会も実施させていただいております。

(委員)

職員研究会をやった結果、平成 26 年度予算編成上で、協働事業に対して、こういう理由で必要だからもう少し予算をつけてあげてほしいというような話はなかったですか。

(委員長)

事務局いかがでしょうか。

(事務局)

次のところで皆さんに意見を頂戴したいところがございますのと、市の方でも元気創造事業というので、ルーキーズを描かれた森田まさのりさんのトークショーというのを今年には取り組みをさせてもらいました。元気創造事業という別枠で、いくつか取り組みを進めていただける状況です。行動計画というのを定めていかないといけないのではないかと思います。ご意見もいただいております、この点につきましては、引き続き意見交換の中でご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(委員長)

ありがとうございました。研究会をやった方々は、その後活躍されていますか。

(事務局)

地域に出向いて、まちづくりに関してワークショップ等で培ったノウハウは活かしておりますし、職員の中でも自主的に集まって、活動されています。

(委員長)

それは心強いですね。その他いかがでしょうか。それでは、職員研究会の事例集も生かすという形で、次年度協働の行動計画を策定してはということで少しご案内ございました。これにつきまして、この後少しご意見をいただければと思います。まずは事務局の方からご趣旨等説明いただければと思います。

(事務局)

市の方では、協働のまちづくりを推進するために、市民の関心もそうですが、職員の意識高揚をはかることを目的に、情報発信でありますとか、市民がまちづくりに参画していただけるきっかけづくりであるとか、市民活動の支援、元気創造まちづくり事業の助成支援、を行うことにより、土壌づくりに取り組んできています。除々にではありますが、市民活動の広がりですとか、職員の協働に対する意識の醸成についてもてきて図れてきているかなと感じているのですが、庁内の取り組み状況につきましても、件数だけ見ていると多いようにも思うのですが、市の総合計画の基本理念の中に、市民主体、市民協働によるまちづくりということが掲げられておりますので、この視点を持って庁内の各事業が実施できるように、条例を具現化するための行動計画の作成が必要ではないかということで、市の議会の方からも意見をいただいております。委員の皆様には行動計画の必要性という観点を含めてご意見をいただきたいと思っております。

(委員長)

ありがとうございました。本市の市民参画協働推進のための本市の協働行動計画をぜひつくりたいということでお話をいただきました。これから中身をどうするかの議論が始まるわけですが、こうした計画の必要性やあるいはどんな計画だったらいいか、どういう内容を盛り込んでいったらいいか、この辺りもぜひご意見をいただければと思います。また、そもそもそれは何ですかというようなご質問もあわせていただければと思います。よろしく申し上げます。

(委員)

先ほど、基本理念に照らし合わせて行動計画が必要ではという話でしたが、全体的な実施計画というものがおそらくあると思うのですが、そちらではどのように協働のことが書かれていて、実施計画とは別に協働の行動計画を作られる意図というのは何でしょうか。

(事務局)

基本理念として大枠の中で市民主体・市民協働によるまちづくりを進めますという大きな目標に掲げて、その下にそれぞれの事業があるという形です。

(委員)

その総合計画は何年プランでしょうか。

(事務局)

10年間です。

(委員)

それを落とし込んだ2.3年のものは本市にはないのでしょうか。

(事務局)

5年計画で、前期、後期で、平成26年度に、平成27年度以降の後期計画を策定していくということがございますので、これに合わせて協働の具体的な行動計画を策定していければと思います。

(委員)

今回ご提案の行動計画は何年くらいのスパンでお考えでしょうか。

(事務局)

5年を考えております。

(委員)

前期、後期の全市的な計画との整合性を図っていかれるのでしょうか。

(事務局)

はい。整合性を図って作成していきたいと考えております。

(委員長)

残念ながら今運営されている前期計画には、協働の行動計画が取り立ててはないということが問題です。方針として参画とか協働のことをやるということにはなっているのですが、それを全市的にこういう計画で進めていきたいと思いますという形にはなっていないということです。ここが課題ではあったということです。

(委員)

前期の期間としては、平成26年度で終わりですが、その辺りの進捗の把握はしておられるのですか。

(事務局)

来年度に向けての進捗状況、課題の整理を担当課の方で調査している状況です。

(委員)

こういう場で説明できるのはいつ頃になるのか？

(事務局)

来年度になると思います。それを踏まえまして、平成27年度以降の後期計画を策定していきます。

(委員)

行動計画の件ですが、栗東市の中で一番問題になっていることで、行政だけでは解決できないようなことをどうやったら解決できるのか、それこそ大学や企業と協働することで、解決できそうな問題が実際あるのか、なかったらやらなくてもいいのではないかと思います。

す。やらないといけないからやるのであって、やらなければならないから問題を見つけてくるではやっぱり進まないと思うので、行政だけでは解決できない問題の洗い出しからやらないと、問題をどうやって5年間でここまでもっていこうよというのをしないといけないと思うのですが。市民参画と協働の庁内取り組み状況についても、聞かれているから出すわというような、協働しようと思って協働するのはなかなか難しいことなので、後援が果たして本当に協働なのかどうかとかということもありますし、どうなのでしょう。そういう問題って、今栗東市の方が、市民もそうですし、これは困っているわという問題は出てきているのでしょうか。

(委員長)

事務局ではどういう認識でしょうか。

(事務局)

職員の方で再度問題の洗い出しをしていきたいと思っています。それを持って、できれば内部でプロジェクトチームを立ち上げながら進めさせていただきたいなと思います。

(委員)

協働事業をすることになった課の方がちょっと・・・ということはよくある話ですが、逆に市がやらなあかんからお願いしますよということでないとは動かないと思います。本当にしないといけないという問題がないのであれば、今のところ行動計画もできませんという風になっても仕方がないと思うので、本当に困ってないと進まないと思いますので、でも問題はないはずはないので、ぜひそういう切羽つまったところを見つけて動いていただけたらなと思います。

(事務局)

一例ですが、昨年本市も台風の影響を受けまして、そういった中で見えてきたことは、市の職員、消防、警察等、公の部分だけでは到底きれないということが見えてきました。そういった部分で地域とどう連携していくのは大切な部分であるし、対応もしていかないといけない、協働でいろいろな事業をしていかないといけないのかなと思います。どういう形の協働が必要なのか、どういう風に協働していくのがいいのかというのは考えていかないといけないと思います。

(委員)

協働の意味っていうのは、その時、その時に協働でないと解決できない問題があるからやるというものもありますが、そういうことを自分たちが考えてこんなやり方で解決できるというトレーニングをずっとやり続けていくことで、何か今おっしゃったようなやらなあかんという時に、職員も市民もそういう経験を持っているということが層の厚い課題解決能力につながるのかなと思います。協働の本質的な意味はそこかなというところに多少、単独でやることよりもお金と手間がかかってもトレーニングしておこうというものかなと思います。

(委員)

目的というのは、市全体が元気でないということなのですかね？

(委員長)

そうですね。

(委員)

そのために協働で元気にやっということですかね？

(委員長)

そうですね。もっと元気にしたいということですね。

(委員)

今一生懸命掘り起こそうとしているのが、グループですよ。そういう方たちの活性化を求めているわけですよ。私は一人ひとりの市民を活性化させたいと考えています。そういうしかけが必要かなと思っています。各課でこれは協働でやった方がいいかなという考えが出た場合に、市の職員の若い人がリーダーになって、地域を視察するのはどうかと。市民の中から募って、小旅行という形で、日帰りでも一泊でもいいですが、そしてその地域の市の職員の方や有力者の方とお話しながら、職員のリーダーと行った市民と、相手の方々とディスカッションするということも一つの手かなと思います。個人を掘り起こそうというしかけが面白いのではないかなと思います。旅代金は、行く市民が出せばいいわけですから市の負担にはならないかと思えます。

(委員)

行動計画という話からは少しはずれてしまうのですが、すごく貴重な話を聞かせていただいたなと思います。協働するから出会うのではなくて、出会っている中から協働のヒントがあって、これができるなと見つかることが多いので、日常の中でどれだけまちづくりのことを話せるかというのが大事なのではないかなと思います。グループでことここがお見合いしましょうではない、そういうまちになるといいなと思いました。

(委員長)

おそらく協働の行動計画を作っていくときにいろいろな活動の出会いの場ですとか、ネットワークづくりは基本的な前提になると思いますし、そういう場をどういう風に作っていくのかというときに市民の皆さん方、あるいは各種団体の方々のご意見を聞きながら作っていくという計画のつくり方の手順のところで今のようなやり方でもって、いろいろな知恵を集めながらつくることにおそらくなると思いますが、とてもいい意見をたくさんいただいておりますので、どうぞどんどんお出しいただければと思います。よろしくお願ひします。

(委員)

若い方が活動できる場が必要だと思います。ボランティアをしている団体が高齢化してきて、なかなか若い方が入ってくれない。ボランティアとしては人数が減っていくような状態です。子育てを応援してあげようとか介護のボランティアをしてあげようという数がすごく少なくなってきています。もう少し若い人たちに広くボランティアのあり方という

のを言ってあげられる場所をつくらないといけないなと思います。一緒にしてもらような場所を作っていけないといけないのではないかと思います。若い人たちをどう育てていくかというのをもう少し考えていけないといけないですね。若い人が入ってくれるのが願いですね。

(委員長)

今、全国的にも、NPO 団体、自治会、地域の各種団体等も含めてどうしてもメンバーの方が一生懸命おやりになればなるほど毎年歳をとってしまう致し方のない構図があります。各団体や活動の中でも意識的に次の世代、次の担い手をきちんと育てていくということも考えていただかないといけないですし、周りからもそういう雰囲気をつくってあげるといことも大事かもしれません。もちろん新しい活動が起こってくればそれにこしたことはないと思います。芽を摘まないように、しかしたくさんの人が気軽に参加できるような雰囲気を作っていく、そういうことも大事かと思ひます。

(委員)

まちと市民との協働ですが、協働ばかりではなくて、やっぱり市というのは指導というか、住民からすればやっぱりひっぱっていく人、理解してもらえる人、色々なことをやってもらえるところという意識がありますので、活動そのものは市民レベルでやっているもので、それを認めてもらう、市からの訪問があるとか、そういうものをしていただいたらもっと住民って元気がでるんですよ。やっぱり指導者であるという立場はなくてはならないと思ひます。やはりプロですから。プロに認めてもらう、時折見に来てもらう、そういうものがあれば住民は元気が出ると思ひます。もちろんうちの地域でも活動をやっています。それは地域のお年寄りをなくすため、そういうものをつくって毎週活動していますが、やはり市は指導に関わってもらいたいと思ひます。協働でやることをアピールしなくても、認めてもらって、引っ張っていってもらって、時折励ましてもらって、そういう立場での関係というのを、プロであることを意識してもらえたらと思ひます。

(委員)

反対意見を申し上げるつもりはないですが、やはり価値観が多様化しているといひますか、行政職員の皆さんプロですが、プロとしての経験だけでは立ち向かえない課題があるだろうと思ひます。その課題が何なのかというのは今委員がおっしゃったように明らかにしていけないと思ひますが、そうした時に行政職員の経験であるとか行政は職員としてのプロは生かしていただきたいと思ひますが、引っ張って行って、リーダーシップを発揮していただくことはもちろん必要だと思ひます。一方で、協働というのがこれだけ全国で取り組まれている理由というのは、引っ張っていっただけではなくて、支えたり、つなげたりするプロとしての行政職員の面というのもできるだけ生かしていただく必要があるのかなと思ひます。委員のおっしゃった、引っ張っていくリーダーシップとともに、調整型のリーダーシップというのも行政の方は培ってこられたわけで、両面を生かしていければいいのかなと思ひます。計画というものを多くの場合、作りっぱなしといひ

ますか、正直に申し上げて誰が見ているのかというような現状が生まれることはよくあると思います。もちろん市の職員の皆さんは見ていますと思いますが、今回のような協働のための行動計画といった場合に、この計画というのは引っ張ってくれる行政の方が見るものとなってしまうと、せっきくの協働の行動計画という意味ではもったいないかなと思います。市民の方も読んでくださる、使ってくださるような行動計画にしないと、職員の指針としての行動計画というだけでは、協働という名がついているものとしてはふさわしくないかなと思います。もう少し突っ込んでいいますと、そうすると作成段階から協働で作った方がいいのではないかなと思います。協働がテーマの行動計画というのは、かなりチャレンジな課題だと思います。

(委員)

それは当たり前のことで、作る時から市民も一緒にないとそれは意味がないですね。リーダーシップは住民の中でも持っている人はいますので、要するに、ほったらかしでないという部分で、私はいつまでも協働でやっていただく必要はないと思います。

(委員)

協働は目的ではなく、手段なので、行動計画を立ててそれがどういう風に実施できたのかという評価をどうするのがいいのでしょうか。市民参画と協働の庁内取り組み状況のように、数で評価するのか、どういう風に評価するのがいいのでしょうか。庁内取り組み状況のように、数字だけでは意味がないけど、でも他にしようがないから皆さんやっているという面もあるのではないかなと思います。

(委員長)

こういうリストを作っていただくこと自体は当然全体を見ておかないといけないので、意味があると思っているんですけど、ただし、これでは評価にならないというのは、そのとおりでして、協働に関するいろいろな計画を作っておられるときにやはり今もお話がありましたように協働そのものをどういう風に定義をし、そして市全体で進めていこうというときに協働の範囲をどういう風に考えるのか、対象になる方をどういう風に考えるのか、広くとっておられるのもありますし、行政に関わる部分だけに限定されているところもあります。この辺りも今後議論をしないといけないかなと思っております。策定の方法とか、実際の進行管理をどうしていくのか、その評価をどうしていくのかというプロセスでいわゆる PDCA サイクルで、これをどういう風に考えていくのか、ということについてもいろいろと考え方があります。基本的には行政の計画として管理をし、評価をされるというケースもありますし、市民との協働の計画なので、市民と一緒に評価をしますというプロセスもあります。ご質問の趣旨、どう評価をするんですかということと言いますと、なかなか難しいんですけども、基本にありますのは、3年とか5年の短期的な計画ですので、その間の到達目標とか達成目標というのを定めるというのを一般的にはおやりになります。達成目標に具体的な協働事業であるとか、解決する課題であるとかそうしたものを盛り込んでいくということになります。それが5年間のうちの何年目までにどのくらいという工

程表を作成してそしてそれにしたがって進行管理をする、市民参加型の場合は、毎年その結果を市民と一緒に検討して公表する、行政計画型の場合には、行政として進捗状況を公表される、そんな手順で評価をされることが多いように思います。なかなか目標を決めること、そこに至る工程を具体化するというのは難しいのですが、みなさんそれぞれ工夫をしながら各地やっておられます。

(委員)

今、3年から5年くらいだったらこういうことかなというのをご披露いただいたのですが、協働は手法だということを見ると、協働ということでもまちづくりが進んでいくと、栗東市のまちがどういう風がいいまちになっていくのか、協働でこそこういうまちをつくっていくというのを共有するのがいいのかなと思います。行政と市民がそれぞれやっているのではなくて、協働ですることによって、5年後、10年後のまちにとって何がいいのだというのを共有すると、これに向かってやっていくということを行動計画の中でも示し続けるということがいいのかなと思います。それがないと、数値目標を達成することが目標になってしまうと寂しいなと思いました。

(委員長)

基本にあるのは、市の総合計画で掲げておられるこれからの元気まちづくりとして、大きな目標はあるはずですが、協働の成果としてどんなまちになっているのかというのは、私たちに考えていく必要がある、誰が考えるのかというのは、これから議論しないといけないのですが。そういう目標に向けて、それを達成する手立てとしてどんな協働をしていくのか、もう少し具体的に、来年までにはこんなことをやりましょうという風に考えていけると少しずつ積み上げながら、しかし大きな目標に向けて一步一步進めていく、そのようなイメージができるが一番いいなと思います。将来実現したいことから、今現在どういう状態なのかというのを考えることは大事だなと思います。

(委員)

先ほど、元気がないからこういうことをやるのかというお話もありましたが、まちには大きな課題がありますが、小さい明かりを消さずに、みなさんをお願いをしているわけです。小さな明かりを力のある大きな明かりにするのは、私は、行政だと思います。行政はそれを仕事になさっているわけですよ。一番情報をたくさんもっておられるわけですよ。個人的には、いろいろ能力を持った市民がおられますが、一般的に栗東市のまちはこうあるべき、こうしていくという知恵が出るのは行政だと思います。行政がビジョン、道筋を示してくれたら、小さい明かりが一つになって大きな明かりになると思います。ぜひともそうしてほしいです。私は、平成25年度の成果報告会を朝から聞かせてもらっていましたが、それぞれがそれぞれの立場でやっておられます。それだけ見ると、悪いですが大きな力にはなりません。それを結集させるのは、行政の仕事だと思います。

(委員)

行政がそれができないからこういう制度を設けて、みんな提案してくださいと言ってる

のではないのでしょうか。こういうことをやったら元気になるというアイデアを行政が考えて浮かんでくるものなら今頃出ています。それが浮かんでこないから市民の意見の中から拾いあげてやっていこうとしている。ところが何年間か見ていると、3団体なら3団体ばかりですよ。それをより広く団体に広めることはしていただかないといけないかなと思います。今この実情でいきなり行動計画といっても違うかなと思います。もっともっと市民から意見が出る方法を考えていただきたいと思います。今回、地振協関係が数として増えているのは、ひとつ手を広げた方法論のひとつだったのかなと思います。義務的に出しているのかもしれませんが。提案を広げるという方法論を考えていく必要があるのではないかなと思っています。例えば商工会がやったりつとうバルというのは結構広がっていたと思います。今の制度が限られた団体だけで進んでいるように思います。みんなが行動を起こす状況をどうやたらつくれるのかという話のように思います。

(委員)

この委員会自体が協働ですよ。私たちがどれだけ意見を出せるかということですが、私たちもまちのことをよく知らなければいけないですが、普通の委員会と違って、結構意見が出ていると思います。これが協働のあり方であって、ここから計画を立てるのであれば先ほど先生が言われたようなやり方で、計画の中に入れるか、そういったことを考えるのは行政なので、私たちはいっぱい言いたいことを言っていますが、そういうことが協働だということを市民の方に訴えないといけないですね。市民の中にはいっぱい良い意見を持っている人がいます。それを上手にアンテナを張って、意見を吸い上げられるとここで発言ができるんですが。

(委員)

今の意見で、この「市民参画」一覧表で、審議会その他の附属機関による審議もきちんといい意味での議論ができているのがどれだけあるか、それぞれの会議の持ち方をどういう風に運営していくかというのも協働かなと思います。

(委員)

行動計画の中での評価の話が出ていましたが、行政の計画は割りと抽象的になりがちで、統計的な全体像をとらえようとするのですが、おっしゃっていたように、今は小さな明かりをどうするかという話なので、評価というものを抽象的にとらえるというよりは、例えばこんな声があがっている、一緒になってやったらこうやったとかという市民の方の声等、具体的な評価というのを盛り込んでいただけたらと思います。もう一つ、委員がおっしゃっていたように具体的に出てくる団体が限られているという印象を持っています。草津のひとまちキラリとかは、割と出てきているように思っているのですが、あそこは、中間支援とか、栗東でいうとコミセンに近い機能を果たしているところが、日々、団体をうまくつないでいくしくみがあると思います。普通に会議室を利用しているだけだったのに、これ応募してみたらというような、つながりが栗東は弱いかなと思っています。そういった橋渡しの役割があるといいのかなと思います。役所という敷居が高いんですよね。皆さ

んの姿勢とかそういうものではなくて、組織としてそういうものなので。

(事務局)

今委員の方から中間支援団体の必要性ですとか、どんなまちにしていきたいかという視点をもってという形でありますとかいろいろなご意見をいただきました。今後もしろいろな意見を聞きながら行動計画の策定を模索していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(委員長)

ありがとうございました。行動計画については、来年度こんなものを考えているんだということで委員の皆さんからはご意見をいただきました。そもそも何のためにやるのか、計画づくりを仮にやるとしてどんなまちにしていきたいのか、意味のある計画を作ってやって、成果のある計画にするにはどうしたらいいのか、そんなお話もいただきました。その時に作り方で、協働で作らないとということは皆さんから強調されました。計画の性格としても市民も一緒に作っていく、いろいろな団体の方も一緒に入っていきそんな計画にしないといけない、行政の責任だけではなくて、市民や各種の団体の方々も一緒に責任もって関わっていくようなそういう計画にしないといけない、そういうご趣旨だろうと思っております。その中で具体的にどんな計画の中身を盛り込むのか、これも本当にご意見をいただきました。まだまだ検討しないといけない点がたくさんあるかと思いますが、ぜひ市の方におかれましては、今日のご意見をしっかり受け止めていただいて、これから、来年度、どうなるかわかりませんが、ぜひ協働の指針、あるいは、協働の行動計画ぜひご検討いただければと思います。それではこの行動計画については以上にしたいと思いますが、各委員よろしゅうございますか。

(委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、現在予定をしておりました意見交換は以上にさせていただきます。事務局その他何かございますか。

(事務局)

次回(平成26年度第1回)推進委員会を6月に開催予定。

平成26年度は行動計画の関係で、推進委員会を3回開催の予定。

協働事業提案制度については、団体と担当課の調整の時間をとるため、スケジュールを昨年度より早めて、7月に提案募集していく。

(委員長)

それでは本日の議事につきましては以上にさせていただきます。それでは副委員長より、最後一言お願いします。

(副委員長)

委員の皆様には大変お忙しい中、熱心にご審議いただきましてありがとうございました。

平成 26 年度のそれぞれの事業が地域ならびに栗東市の発展につながることを心からご祈念申し上げて終わりのご挨拶といたします。本日は大変ご苦勞さまでした。

6. 閉会

(事務局)

それではこれをもちまして市民参画等推進委員会を終了させていただきます。本日はご議論をいただきましてありがとうございました。